

—着用試験による着用感調査—

奈良女大家政 〇加藤雅代* 丹羽雅子

目的 婦人服裏地は、直接肌に接して着用される機会が多い。したがってその素材のもつ性質が衣服の着用感に及ぼす影響が大きいと考えられる。本研究では、快適な着用感の得られる婦人服裏地の物性を明確にするために、本報では、まず繊維素材の異なる婦人服裏地を取り上げ、快適性要因の客観化のために、スカートの着用実験による官能検査を行った。

方法 試料として厚さ、重量、及び布構造のほぼ等しいレーヨン・キュプラ・ナイロン・ポリエステル裏地を用い、夏季と冬季の環境条件の違いによる着用感への影響を明らかにするため、夏冬用スカートを製作した。冬用スカートには、上記4種の裏地に絹を加え、表地にはいずれもポリエステル100%で、夏用としてジョーゼット、冬用としてサージを使用した。夏季は6月下旬～8月上旬、冬季は12月上旬～下旬にかけ、健康な女子学生11名により着用実験を実施した。調査方法は、温冷感、湿潤感、表面及び力学的特性が関連する触感など10項目を設定し、SD法によるアンケート形式を採用して5段階評価を行い、多変量回帰分析の手法を用いて検討した。

結果 夏季の着用感において、親水性のレーヨン・キュプラ裏地と疎水性のナイロン・ポリエステル裏地との間にムレ感・ベトつき感・やわらかさの項目に有意な差がみられ、夏季に快適な裏地としてレーヨン・キュプラ裏地が挙げられた。冬季の着用感には、上述のような素材間の明確な差はみられず、絹裏地にのみ他の裏地に比べ、暖かい、静電気によるまつわりつきが大きいなどの特徴が認められた。

*現在、東レ(株)勤務